



一般社団法人益田サイバースマートシティ創造協議会

通信Vol.11

益田グローバルヘッドクォーター（Global Headquarters）

〒698-0024 島根県益田市駅前町17番1号 EAGA 産業支援センター内 2021/1/31

益田市での具体的な取組

一般社団法人益田サイバースマートシティ創造協議会(MCSCC)は、全国各地でルール型スマートシティ実現に向けた取組を行っておりますが、島根県益田市は最初の取組を行った「出発点」であり、MCSCCにとって特別な場所となっています。

MCSCCの益田プロジェクトは2019(R1)年からは、国土交通省のスマートシティに関する先行モデルプロジェクト15事業に選定されました。MCSCC設立前から有志連合で始めた取組、制度設計上MCSCCとは別の社団を設立して行っている取組もあります。今回は、多岐にわたる取組の概略をご紹介します。今後、個々の取組についてご紹介する機会をつくっていかうと考えております。

【水位計】街中に用水路が張り巡らされているため、水門管理を迅速に行わないと浸水や冠水が発生します。この水位をスマホで確認できるようにしたシステムが継続的に情報を提供しています。

【医療ヘルスケア】協力してくださる市民が計測した血圧値を自動転送し、岡山大学医学部に集まったデータからレポートを作成して島根大学医学部、益田市医師会等の協力の下市民の健康管理に役立てています。

【道路モニタリング】道路の路面の状況をリアルタイムに把握するため、センサー搭載の車を市中に走らせ、道路修復の実施箇所決定の情報が得られるよう、開発を進めています。

【鳥獣害IoT電気柵】電気柵の電圧低下箇所をリアルタイムで把握し、原因となる植物の刈取りを行って鳥獣害対策機能を維持する工夫をしています。

【高齢者見守り】認知症のため歩き回る高齢者の居場所をリアルタイムで把握し、家族が容易に見守りできるよう実証実験を行います。

【乳幼児見守り】高齢者見守りと類似の技術を用いて、保育に当たる方々が乳幼児の状況を把握するのを手助けする取組を行います。

【スマート杭】位置情報を発信するスマート杭により森林の境界確認を容易にし、同時に位置情報を利用して土砂災害の予兆察知を目指します。

今年は益田プロジェクトを益田キャンパスを担う企業群主体の仕組みに移行させつつ、「益田スタイ

ル」の他都市への展開を図り、益田の名を全国・世界に広めてまいります。



益田市長

山本 浩章

人口減少・高齢化を課題とする典型的な地方都市である益田市は、平成31年度（令和元年度）施政方針において、今後はいっそうの「連携の充実と発信」を目指すこととし、それにあたり、SDGs（持続可能な開発目標）の概念をすべての事業の推進において意識することとしました。これは、国際的な目標を活用することで広い視野の中で政策課題が明確になること、連携の相手方と共通の言語を使用することで政策目標の共有と連携の促進が期待できること、そして何よりSDGsに合致する取組が地域の課題解決につながるとともに国際貢献にもなることからです。

また、私は令和2年8月から3期目を迎えました。その始まりにあたり、所信表明において、これまでの取組を土台として本市の今後の発展の流れを確実にしていくこととし、「未来のまちづくりにつながる先端開発推進」に引き続き取り組むこととしています。

もともと新しい技術を活用して行政課題を解決することを目指して始まったIoT関連事業は、令和元年度と令和2年度に国土交通省の「スマートシティモデル事業の先行モデルプロジェクト」として採択されるという進化を遂げています。今後も、情報通信網を始めとする都市基盤を充実・刷新するなどして、市内外の意欲的な企業や研究機関が先駆的なサービスを提供できる環境を整備しつつ、市内の萩・石見空港から羽田空港まで1.5時間という優位性を活かし、人と技術の流れを呼びこむことで、市民の生活の利便性・快適性向上と地域経済の活性化につなげていきたいと考えています。